

日本応用経済学会ニュースレター

Japan Association of Applied Economics News Letter

第 11 号 2019 年 12 月

日本応用経済学会事務局：〒819-0395 福岡市西区元岡 九州大学経済学部

TEL/FAX：080(5321)7299

E-mail: jaae@jaae.org

<http://www.jaae.org/>

目次

会長挨拶

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

紹介！研究室

2020 年度春季大会のご案内

事務局だより

2018 年度決算資料

2019 年度予算資料

I. 会長挨拶

2019年12月
日本応用経済学会
会長 田中広滋

「デジタル産業革命と地域のイノベーション」

デジタルマネー、フィンテック、プラットフォーム、IoTなどのメディアに登場する用語はデジタル産業革命を語るキーワードである。産業革命という用語はわれわれの生活を支えてきた社会の仕組みを大きく変えることを暗示する。技術革新が経済活動だけでなく社会や国家の機能までに大きな影響を与えるのであれば、それは地域の枠を超えて、経済学だけでなく社会科学全体でも重要テーマとして共有されている。

20世紀末から、21世紀初頭に世界経済を牽引したグローバリズムは、新自由主義の思想で代表されるように、グローバルな市場の拡大が各国の経済社会の活動に恩恵を与えると信じられていた。現在、米国と中国のGDPの総計に占めるシェアはそれぞれ20%前後で競い合っている。米国の経済が第一位の規模を占めたといっても、第2次大戦後の時期のように、圧倒的というわけではない。世界全体の経済が拡大するなかでは、巨大な企業でも独自のシステムに基づいてグローバル社会で成功を続けることはできないで、ガバナンスの標準を守り、グローバル社会と協調することが求められる。

グローバル化を推進する原動力の一つとなったICTのイノベーションは製造業の製品価格引き下げに寄与して、製造業が地域を支えるプラットフォーム企業の登場とともに企業の売り上げは増えても、地域の小売業が競争に敗れて衰退するという現象を多くの地域で生じさせている。金融ビジネスもこの潮流の中で変革が求められている。デジタル産業革命はその恩恵がグローバル社会に一律に及ぶわけではなく、ある地域への富と所得の集中をもたらすことが懸念されている。実際、ウ

ーバーがタクシードライバーの所得が低くて集まらないとか過剰観光の防止のためにエアビーアンドビーの活動を規制する地域が拡大している。各国の経済成長に伴い、国民の生活水準の向上が顕著となり、公共サービスへの需要が高度化することから、各地域の独自のニーズに応えるために中央と地方政府が協力して取り組む仕組みづくりが必要になる。この産業革命を乗り切る地域戦略は緊要となる。

本学会と協力関係にあるKEBA(Korea Economics and Business Association)が11月15日と16日にFuture Strategic Industries and Regional Innovationのテーマで釜山大学にて秋季国際大会を開催した。本学会から私は小川光先生(東京大学)、玉井義浩先生(神奈川大学)、松島法明先生(大阪大学)の気鋭の研究者と一緒に参加した。また、私はInnovation on the digital economies and sustainability of the global communities (Annals of Social Sciences & Management Studies: 2019, 4(2)掲載)を14日に大学院の講義で、15日に学会で報告した。

(文責・田中広滋)

II. 平成30年度日本応用経済学会第2回理事会報告

日時：平成30年10月27日(土)11時00分～

会場 大東文化大学板橋キャンパス 3号館30101教室

出席者：田中、焼田、藪田、福重、多和田、永星、坂上、細江、林、藤田、大内田、木原、洪澤、慶田、中山、内藤、長岡、野崎、瀧本、近藤、池田
以上、21名

開催校挨拶

開催校の池田剛士実行委員長より挨拶があった。

議事

1. 新会員・退会員承認

入会希望者の入会と退会希望者の退会が承認された。引き続き、会員の増加のために協力の依頼があった。

2. シニア会員について

シニア会員についての提案が行われた。意見を徴収し、会費、資格などについては今後詰めていき、常務理事会で精査後、次回の理事会で審議し、総会で諮る予定で進めていくこととなった。

3. 編集委員長等の改選について

次期編集委員長として小川光氏、副編集委員長は依頼することになり、その後、本人の承諾を得られたら、理事会で承認をとることとなった。

4. 国際交流の件（実績報告）

KEBA の秋季大会参加者について説明が行われた。また、細江会員、大住会員が KEBA から交流の功績で KEBA 表彰される予定であることが報告された。

5. 2018 年度学会賞選考スケジュール（案）

資料に基づき、説明があり、資料のスケジュールで承認された。

6. 学会誌投稿料などの改訂について

投稿料等について簡素化することが常務理事会で承認されたので、具体的な内容について審議することとなった。総会での審議事項となるため、総会での審議後の改定となることとなった。

7. 学会則付則改正

学会事務局体制の変更に伴い、付則の変更が提案され、久留米大学に事務局分室を置くことが了承された。

8. 来年度春季大会開催校について

南山大学にて 2019 年 6 月 15 日、16 日開催で進めていることが説明され、了承された。開催校の焼田理事より挨拶があった。

9. 来年度春季大会プログラム委員長について

木原理事が務めることが了承された。

10. 来年度秋季大会開催校について

東京経済大学にて 2019 年 10 月 26 日、27 日の開催で進めていることが説明され、了承された。開催校の長岡理事より挨拶があった。

11. その他

西日本支部の設置の提案が行われ、その主旨について説明が行われた。

報告

1. 韓国交流記念論文集について

細江常務理事より製作の進捗状況、執筆者について説明があり、11 月には完成予定であることが報告された。また KAAE との論集についても進めていることが報告された。

2. その他

九州大学の移転に伴い、事務局の住所が変更されたことが説明された。同時に学会事務局の電話番号も変更することが報告された。10 月より学会事務局の事務補助者業者として古賀朱美氏を週 1 回で雇用を開始したことが説明された。サーバー移転に伴い、ML サービスが利用できるようになったため、利用することが説明された。

以上をもって、理事会を終了した。

III. 令和元年度日本応用経済学会理事会報告

IV.

日時：令和元年 6 月 15 日 10 時 30 分～

会場：南山大学 Q54 会議室

出席者：田中、焼田、藪田、成生、多和田、永星、坂上、細江、大川、林田、大内田、木原、慶田、小川、三浦、中村、内藤、長岡、野崎、瀧本、池下以上、21名。

開催校挨拶

焼田実行委員長より開催校を代表して挨拶が行われた。

議題：

1. 新入退会員承認

資料1に基づいて、新入会員の承認と退会者の承認が行われた。

2. 平成30年度会計報告

資料に基づき、平成30年度の会計報告が行われ、続けて監査結果が報告された。その後、承認された。

3. 令和元年度予算

資料に基づき、令和元年度予算が説明され、承認された。

4. シニア会員について

前年度第2回理事会で継続審議となっていたシニア会員規定案について説明が行われ、承認された。

5. 2018年度学会賞選考報告

成生選考委員長より、選考結果について、資料に基づき説明が行われ、承認された。また、選考委員長より今後の審査についての方針についての提案が行われた。議論の結果、継続審議となった。

6. 学会誌編集の件

小川委員長より編集進捗について説明があった。5本中1本が採択され、審査中が4本であることが報告された。また、編集方針として、査読者に、できるだけ早く査読をお願いしていることと、前向きに検討して頂けるようお願いしていることが説明さ

れた。

次に、学会誌のタイプセットについて資料に基づき説明があり、変更が承認された。

7. 国際交流について

資料に基づき、派遣結果について報告が行われた。

8. KEBA への交流功労賞について

KEBA との長年の交流の功績に対し、Chongung Kim 教授 (Faculty of Global Business & Economics, Daegu Haany University, Professor) と ILTAE KIM 教授 (Department of Economics, College of Business Administration Chonnam National University) を表彰することが提案され、承認された。

9. 西日本支部会開設について (資料9)

細江常務理事より支部会開設と計画について説明が行われた。それに伴う支部規定案が提出され、審議が行われた。審議の結果、規定案について承認された。

10. その他

報告

1. 次回の大会開催校挨拶

秋季大会開催校の長岡先生より挨拶があった。

2. 次回大会のプログラム委員長について

藤田康範氏 (慶應義塾大学) に就任頂いたことが報告された。

3. 次年度大会開催校について

熊本大学で開催予定であることが報告された。

4. 会則付則の変更の件

前回の理事会で承認された付則の改正を総会で審議されることが報告された

5. その他

KAAE との論集の出版についてほぼ完了したこと

が報告された。

V. 「応用経済学研究」編集委員会報告

編集委員長 小川光（東京大学）

編集委員会報告

投稿論文の査読の進捗について説明があった。不採択が5本、採択が4本、審査中が3本であり、4～5本が12巻に掲載される見通しである。

投稿学会誌のタイプセットについての提案が行われた。特集号などもことも含めて、継続審議となり、次回以降の理事会にて、再審議となった。

VI. 2018年度学会賞について

学会賞選考委員長 成生達彦（同志社大学）

学会賞 内田交謹氏（九州大学）

（受賞理由）

内田交謹氏は株主の構成と経営者の報酬、取締役会の規模や構成と企業業績との関連など、企業金融の諸課題をアジアの共同研究者のネットワークの中で精力的に研究し、その研究成果はJournal of Corporate FinanceやJournal of Financial and Quantitative Analysisなどの査読付き国際的学術誌に掲載されている。長年、企業金融の分野で多くの実証研究を行っており、その成果は高い評価を受けている。また、学会でも積極的に研究成果を報告するのみならず、応用経済学会から刊行した『トピックス応用経済学 I』（勁草書房）の編著者としても貢献している。

学術論文賞 該当者なし

奨励賞 芝啓太氏（信州大学）

（受賞理由）

選考対象論文「粗出生率の変化で見る自然災害が日本に与えた影響—市区町村データを用いた実証分析—」（応用経済学研究 第12巻掲載）

論文では東日本大震災が粗出生率に与えた影響についてDIDの手法を用いて検討し、被災地では他の地域より粗出生率が低下したという結果を実証的に導いている。

近年の日本において、地震や局地的豪雨などの自然災害の発生による被害が人々の経済活動に与える影響を考察することは重要な研究課題であろう。また、自然災害が出生率に与える影響は、出生率が低い我が国の将来を考える上でも重要である。そうであるにもかかわらず、日本における自然災害の出生率への影響を扱った分析は少なく、その意味で授賞論文は先駆的な研究であり、今後の研究の発展が期待される。

著作賞 該当者なし

VII. 国際交流委員会報告

国際交流委員会委員長 中村保

1. 韓国応用経済学会（KAAE）大会派遣

2019年4月26日（金）にDaegu Grand Hotel（大邱市）で開催された韓国応用経済学会（KAAE）の年次大会に以下の先生方にご参加・ご報告いただきました。川本 真哉先生（南山大学）、河西卓弥先生（熊本県立大学）中泉拓也先生（関東学院大学）、佐藤祐一先生（中央大学）片渕結矢先生（総合地球環境研究所）、栗田健一先生（九州大学）

また、KAAEからの招待という形で細江守紀先生（九州大学名誉教授）にもご参加いただくことができました。

2. 春季大会表彰（Academic Lifetime Achievement Award）

韓国経済通商学会（KEBA）の会員で、本学会との交流などに関して長年ご貢献いただいた下記の2名の先生を、6月15日（土）に南山大学で開催された春季大会の懇親会で表彰させていただきました。

IlTae Kim先生（Chonnam National University：全

南国立大学校), Chongung Kim先生 (Daegu Haany University : 大邱韓医大学校)

3. 2019年度日本応用経済学会秋季大会 へのKAAEからの参加者

2019年10月26日(土)・27日(日)に東京経済大学で開催された秋季大会に韓国応用経済学会(KAAE)の下記の5名の先生方にご参加いただきました。

Hyunbae Chun先生 (Sogang University)

KAAE会長

Jin Yeong Kim 生(Konkuk University)

KAAE副会長

Heon Jae Song 先生(University of Seoul)、

Hayeon Joo 先生(Sogang University)

Suyi Kim 先生(Hongik University)

VIII. 紹介！研究室

今回は大東文化大学の津布久将史先生の研究室のご紹介です。

津布久将史 (大東文化大学)

津布久研究室は、経済学部の2年生～4年生が在籍しています。2年生は、経済学の基礎を学ぶとともに、その応用事例を学んでいます。具体的には、基本的なミクロ経済学のテキストを輪読しつつ、これに加えて月に1度は経済学の最先端の研究をわかりやすくまとめたコラムを読むようにしています。これによって、経済学がどのように現実に応用されるのかを知ってもらっています。

次に、3年生では年末に行われる大東文化大学経済学部演習成果発表会に向けて、グループごとに研究プロジェクトを進めていきます。この時、私の研究室では教員から研究テーマを与えることなく、学生自身に自由にテーマを決めてもらっています。初めのうちは学生も、自由で楽だと思っていますが、いざプロジェクトを始めると思ったようにはうまくいかず四苦八苦しています。このような逆境の中でも、やはり学生も自分たちで決めたテーマですので最後

まで責任をもち、成果発表会で良い成績を残せるように頑張っています。そして、最終学年の4年生時には、3年生で行った研究内容をまとめ、卒業論文を執筆しています。

IX. 春季大会について

令和2年度の春季大会は、6月20日(土)・21日(日)に熊本大学で開催されます。会員の皆様からのご報告、セッションのオーガナイズの申し込みをお待ちしております。申し込みは学会HPをご参照ください。

X. 事務局便り

今年も残すところ3週間となりました。例年9月発行のこのニューズレターの発行が遅れましたことまずはお詫び申し上げます。

会員の皆様のご尽力によって当学会があります。今後とも引き続きご支援の程、宜しく願い致します。

(ニューズレター作成担当 内藤徹 (同志社大学))

平成30年度 日本応用経済学会 会計報告
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	4,115,906	4,115,906	0
会費収入	3,130,000	3,258,000	128,000
参加料収入	460,000	466,000	6,000
懇親会費収入	150,000	184,000	34,000
学会誌収入	120,000	84,568	▲ 35,432
利子収入		8	8
京都大学より		128,131	128,131
大東文化大学より		92,057	92,057
(収入小計)	3,860,000	4,212,764	352,764
合計	7,975,906	8,328,670	352,764

現金・預金残高

平成30年度期首	小計
郵貯事務センター	2,313,109
ゆうちょ口座	977,937
福岡銀行	824,860
現金	0

期首繰越	4,115,906
------	-----------

平成30年度期末	小計
郵貯事務センター	2,952,579
ゆうちょ口座	1,010,943
福岡銀行	82,862
現金	4,053

期末繰越	4,050,437
------	-----------

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	200,000	153,280	46,720
消耗品費	60,000	99,529	▲ 39,529
事務補助費	500,000	346,160	153,840
学会開催補助費	800,000	800,000	0
懇親会補助費	150,000	184,000	▲ 34,000
理事会開催補助費	100,000	89,136	10,864
各種委員会開催費	50,000	0	50,000
シホジウム等補助金	200,000	126,400	73,600
学会賞	90,000	65,070	24,930
国際交流費	350,000	386,416	▲ 36,416
払込手数料	50,000	49,224	776
学会誌購入	1,700,000	1,950,804	▲ 250,804
学会webサイト運営費	40,000	28,214	11,786
雑費	30,000	0	30,000
予備費			
小計	4,320,000	4,278,233	41,767
繰越金	3,655,906	4,050,437	
合計	7,975,906	8,328,670	▲ 352,764

上記の通り報告致します。

常務理事(財務担当)

永星 浩一

会計担当幹事

池下 研一郎

会計担当幹事

野崎 竜太郎

監査の結果、上記相違ありません。

監 事

中村 大輔



令和元年度 日本応用経済学会 予算

(令和元年4月1日～令和2年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	4,050,437	
会費収入	3,950,000	(10,000円×370人)+(5,000円×50人)
学会誌収入	120,000	掲載料10,000円×6人+投稿料6,000×10人
利子収入		
(R1年收入小計)	4,070,000	
合計	8,120,437	

2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	180,000	
消耗品費	60,000	
事務補助費	600,000	100,000円×2回+400,000円
学会開催補助費	800,000	400,000円×2回
理事会開催補助費	105,000	52,500円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シンポジウム等補助金	130,000	
学会賞	90,000	
国際交流費	300,000	2人2泊宿泊費
払込手数料	75,000	郵便振替手数料値上げのため増額
学会誌購入	1,750,000	
学会webサイト運営費	35,000	
雑費	20,000	
小計	4,195,000	
予備費	3,925,437	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	8,120,437	